



## 平成30年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年5月8日

上場会社名 株式会社グリーンズ 上場取引所 東 名  
 コード番号 6547 URL <https://www.kk-greens.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松井 清  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 伊藤 浩也 TEL 059(351)5593  
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成30年6月期第3四半期の連結業績（平成29年7月1日～平成30年3月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	20,107	2.8	1,464	△17.1	1,426	△14.0	935	△19.3
29年6月期第3四半期	19,561	—	1,766	—	1,657	—	1,159	—

（注）包括利益 30年6月期第3四半期 945百万円（△19.7%） 29年6月期第3四半期 1,176百万円（-％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第3四半期	73.90	—
29年6月期第3四半期	115.13	—

（注）1. 当社は、平成28年6月期第3四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、平成29年6月期第3四半期の前年同四半期増減率については、記載しておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 3. 第1四半期連結累計期間より表示方法の変更を行っており、当該表示方法の変更を反映した組替後の数値を記載しております。当該変更により営業利益を変更しております。

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第3四半期	16,712	8,808	52.7
29年6月期	17,364	8,116	46.7

（参考）自己資本 30年6月期第3四半期 8,808百万円 29年6月期 8,116百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	20.00	20.00
30年6月期	—	0.00	—		
30年6月期（予想）				20.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年6月期の連結業績予想（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,588	6.1	2,013	△12.0	1,955	△12.6	1,249	△12.4	98.73

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、四半期決算短信（添付資料）8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期3Q	12,660,000株	29年6月期	12,660,000株
② 期末自己株式数	30年6月期3Q	42株	29年6月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期3Q	12,659,985株	29年6月期3Q	10,072,993株

(注) 当社は、平成28年12月15日付で普通株式1株につき50株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結損益計算書関係)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(表示方法の変更)	8
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年7月1日から平成30年3月31日まで)における我が国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が継続し、穏やかに回復基調が持続しましたが、海外経済では米国政権の政策運営や国際的に深刻化する貿易摩擦の問題など依然として先行き不透明な状況が続きました。

ホテル業界におきましては、平成30年3月30日に観光庁が公表している最新の宿泊旅行統計調査(平成30年2月第1次速報)によりますと国内全体の延べ宿泊者数は3,686万人泊で前年同月比2.8%の増加となり、宿泊需要は引き続き好調を維持しております。その内訳として日本人宿泊者が2,987万人泊(前年同月比0.7%減)、外国人宿泊者が699万人泊(前年同月比21.3%増)となり、日本人宿泊者は微減となりましたが、外国人宿泊者の伸びは引き続き好調となり、宿泊需要全体を強く押し上げました。しかし、都道府県別の推移では、これまで増加していた三大都市圏が前年同月比2.4%の減少に転じた一方で、地方部は5.4%と大きく増加し、外国人宿泊者のニーズが多様に変化し、全国の様々な観光地やイベント等へ拡散しました。

このような経済状況の下で、宿泊特化型のビジネスホテルを展開するチョイスホテルズ事業は、札幌・仙台・福岡など主要地方都市でのイベント需要、インバウンド需要が堅調であり、前年比で売上を伸長させることができました。一方で東京、大阪などの都心部マーケットでの新規ホテル出店・客室供給量の増加は続いており、日々の宿泊需要予測に基づく柔軟な販売施策の実行、販路拡大等の施策を実行しております。このような状況の下で、平成30年3月にチョイスホテルズの新ブランドとなる「コンフォートスイーツ東京ベイ」を千葉県浦安市に日本国内で初出店いたしました。東京ディズニーリゾートの近隣となる当ホテルは、総客室数312室で、全室ツインベッドとし、広くゆったりとした客室とさらに充実した設備、無料朝食などのサービスで従来のコンフォートブランドよりも大幅にグレードアップしました。これまでとは違ったブランドコンセプトの展開によりファミリー、カップル、グループ利用をメインとした新たな需要の開拓と顧客層の獲得を目指してまいります。

この他にも平成30年2月には「コンフォートホテル名古屋伏見」(愛知県名古屋市中区)の新規出店や既存店では「コンフォートホテル博多」(福岡県福岡市博多区)他3店舗で全室禁煙化施工などのリニューアルを行いました。比較的稼働が低下する1~3月に集中してリニューアルを実施して、新店のみならず既存店にも積極的な設備投資を実施して商品力の強化を図り、顧客満足が高められる商品をもって収益力を向上させていく計画です。

宴会場等を併設したシティホテルを中心に展開するグリーンズホテルズ事業は、12月にリブランド開業した「ホテルエスブル広島平和公園」(広島県広島市中区)が売上増加に貢献いたしました。また、福井県など中部地方の一部では、大寒波による豪雪の影響等により稼働が低下しましたが、雪の影響が少なかった近畿地方ではビジネス・観光需要が継続し、グリーンズホテルズ事業全体では堅調に推移しました。

当社グループ全体では、経営資源の合理化・効率化を図るため、自社保有物件の「コンフォートホテル札幌南3西9」(北海道札幌市中央区)の土地建物を売却し、固定資産売却益を239百万円計上しましたが、その他事業では、ホテルに併設している時間貸駐車場の土地の時価下落が著しく、当初想定していた収益に達しなかったことから減損損失を185百万円計上いたしました。なお、「コンフォートホテル札幌南3西9」の閉店後は、近隣で新たに「コンフォートホテル札幌すすきの」(北海道札幌市中央区)を平成30年6月に開業を予定しております。

当第3四半期連結累計期間は、大型案件である「コンフォートスイーツ東京ベイ」を含め2店舗の新規出店費用と閑散期に合わせた既存店の改修費用及び改修工事にとまう一部客室の売り止め等により、前第3四半期連結累計期間より利益は減少していますが、当初の計画通りであり通期業績見通しに変更はありません。

また、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所のご承認をいただき平成30年3月23日に当社株主は東京証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に、名古屋証券取引所市場第二部より同市場第一部銘柄に指定されました。今後も、さらに持続的な成長と企業価値・株主価値の最大化を目指してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高20,107百万円(前年同期比2.8%増)、営業利益1,464百万円(前年同期比17.1%減)、経常利益1,426百万円(前年同期比14.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は935百万円(前年同期比19.3%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産につきましては、16,712百万円(前連結会計年度末17,364百万円)と、651百万円減少いたしました。

うち流動資産は、7,109百万円(同7,425百万円)と、315百万円減少いたしました。これは、主に売掛金が増加した一方で、現金及び預金が減少したこと等によるものであります。

固定資産は、9,602百万円(同9,938百万円)と335百万円減少いたしました。これは、主に差入保証金が増加した一方で、土地等の有形固定資産が減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、7,903百万円(同9,247百万円)と1,343百万円減少いたしました。

うち流動負債は、4,057百万円(同3,972百万円)と85百万円増加いたしました。これは主に未払金、買掛金等が増加した一方で、未払法人税等、未払消費税等が減少したこと等によるものであります。

固定負債は、3,846百万円(同5,274百万円)と1,428百万円減少いたしました。これは、主に長期借入金の減少によるものであります。

純資産につきましては、8,808百万円(同8,116百万円)と、691百万円増加いたしました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益によるものであります。この結果、自己資本比率は52.7%(前連結会計年度末比6.0ポイント増)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の予想につきましては、前回発表の通期業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,579,948	4,914,630
売掛金	972,434	1,165,100
原材料及び貯蔵品	88,861	90,095
繰延税金資産	59,897	59,897
その他	728,299	880,704
貸倒引当金	△3,917	△567
流動資産合計	7,425,524	7,109,860
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,535,022	1,432,531
工具、器具及び備品(純額)	364,290	401,188
土地	2,888,552	2,226,181
リース資産(純額)	35,600	81,854
有形固定資産合計	4,823,465	4,141,756
無形固定資産	400,584	371,426
投資その他の資産		
投資有価証券	53,946	61,996
長期貸付金	61,984	55,734
差入保証金	4,535,998	4,854,863
その他	120,637	174,916
貸倒引当金	△58,000	△58,000
投資その他の資産合計	4,714,566	5,089,511
固定資産合計	9,938,616	9,602,694
資産合計	17,364,141	16,712,555

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	918,416	962,898
短期借入金	97,810	92,810
1年内返済予定の長期借入金	914,414	912,794
未払金	547,937	797,982
未払費用	554,162	584,814
未払法人税等	572,809	198,156
未払消費税等	158,318	127,677
賞与引当金	—	161,969
その他	208,630	218,663
流動負債合計	3,972,498	4,057,765
固定負債		
長期借入金	4,721,272	3,233,660
資産除去債務	402,848	422,297
その他	150,778	190,109
固定負債合計	5,274,899	3,846,067
負債合計	9,247,398	7,903,833
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,781,660	1,781,660
資本剰余金	1,781,660	1,781,660
利益剰余金	4,562,078	5,244,422
自己株式	—	△67
株主資本合計	8,125,398	8,807,675
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,278	7,013
繰延ヘッジ損益	△11,934	△5,967
その他の包括利益累計額合計	△8,656	1,046
純資産合計	8,116,742	8,808,721
負債純資産合計	17,364,141	16,712,555

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
売上高	19,561,194	20,107,840
売上原価	14,702,614	15,048,243
売上総利益	4,858,579	5,059,596
販売費及び一般管理費	3,091,590	3,595,383
営業利益	1,766,989	1,464,213
営業外収益		
受取利息	1,068	952
デリバティブ評価益	—	2,958
その他	26,744	20,525
営業外収益合計	27,813	24,436
営業外費用		
支払利息	56,887	38,503
シンジケートローン手数料	31,253	5,192
上場関連費用	34,505	—
一部指定関連費用	—	12,500
その他	14,341	6,023
営業外費用合計	136,988	62,219
経常利益	1,657,814	1,426,430
特別利益		
固定資産売却益	—	※1 239,808
特別利益合計	—	239,808
特別損失		
固定資産除却損	654	2,206
減損損失	3,259	※2 185,149
その他	570	—
特別損失合計	4,484	187,355
税金等調整前四半期純利益	1,653,330	1,478,882
法人税等	493,674	543,338
四半期純利益	1,159,656	935,543
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,159,656	935,543

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益	1,159,656	935,543
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,733	3,735
繰延ヘッジ損益	12,454	5,967
その他の包括利益合計	17,188	9,702
四半期包括利益	1,176,844	945,246
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,176,844	945,246

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (四半期連結損益計算書関係)

※1 固定資産売却益は「コンフォートホテル札幌南3西9」(北海道札幌市)の土地建物等の売却によるものであり、資産種類ごとの内訳は以下のとおりです。

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日)
土地	—	△87,221
建物及び構築物	—	327,029
計	—	239,808

(注) 当第3四半期連結累計期間において、同一取引により複数の固定資産を売却し、土地については売却損、建物及び構築物については売却益が発生しているため、売却損益を相殺して固定資産売却益を計上しております。

## ※2 減損損失

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	場所	種類	金額(千円)
事業用資産	福岡県北九州市	土地	185,149

当社グループは、資産を用途により事業用資産、賃貸用資産及び遊休資産に分類しております。

また、事業用資産については、管理会計の単位、賃貸用資産及び遊休資産については、個別物件単位に基づきグルーピングしております。

上記の事業用資産については事業環境の悪化を受け将来事業計画を見直した結果、当初想定していた収益に達しなかったことから、時価の下落が著しい資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。回収可能価額の算定は使用価値及び不動産鑑定評価額による正味売却価額に基づいております。

なお、使用価値は将来キャッシュ・フローを3.1%で割り引いて算出しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、重要な個別項目を調整した上で、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「受取地家賃」に含めていた借上社宅の従業員負担分については、費用負担の実態を明確にし、損益区分をより適切に表示するために、第1四半期連結会計期間より「売上原価」、「販売費及び一般管理費」から控除する方法へ変更しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、売上総利益が42,563千円、営業利益が53,066千円それぞれ増加しております。

(セグメント情報)

当社グループは、ホテル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当による新株式の発行)

当社は、平成30年3月2日開催の取締役会において、野村證券株式会社が行うオーバーアロットメントによる当社株式の売出しに関連して、同社を割当先とする第三者割当増資による新株式の発行を次のとおり決議し、平成30年4月17日に払込みが完了いたしました。

① 発行する株式の種類及び数	普通株式 187,500株
② 割当価格	1株につき1,486.64円
③ 割当価格の総額	278,745千円
④ 資本組入額の総額	139,372千円
⑤ 払込期日	平成30年4月17日
⑥ 資金の用途	平成31年10月末までにコンフォートホテル名古屋駅前 (仮称)新規出店に係る設備投資資金に充当する予定です。